

月高だより

北海道札幌月寒高等学校
第 62号
令和8年9月11日発行
発行者 校長 黒島 敏

■ 9・11

気がつけば、あっという間に9月中旬を迎えます。月2回の発行を目指している「月高だより」ですが、出張やネタ探しをしているうちに今日になってしまいました。最近意外な方からも「読んでよ」との声を聞き、ネットの拡散のスピードと影響力に改めて恐れおののく毎日。真面目に書かないと・・・と思っています。（今まで不真面目だったわけではありません。）

新聞を見ていると、9月11日はアメリカで同時多発テロがあった日だということに気がつきました。もう25年前になるので、一応解説すると、“イスラム過激派の国際テロ組織「アルカイダ」は複数の旅客機を乗っ取り、ニューヨークの世界貿易センタービルなどに衝突させた。外国人に本土を攻撃された米国史上最悪の惨事となった。（毎日新聞の記事より）”という事件です。その後に起きた様々な事件は各自で調べてもらうことにして、当時の私もテレビで映像を見て非常な衝撃を受けました。

1993年に初めての海外旅行先に私が選んだ場所がアメリカでした。映画で見るアメリカ文化に憧れもありました。ニューヨークを訪ね、悪名高い24時間運行の地下鉄にびびりながら乗ったり、ホテルへの道がわからなくなりうろろしているところを怖そうな黒人男性に声をかけられ、結果その人は本当にただの親切な人で道を教えてもらったり、謎の中国人に歴史問題について道ばたで難癖をつけられたり、色々なことがありました。

世界貿易センタービルにも行きました。観光用の展望デッキのようなところがあり、そこまで一気にエレベーターで登ります。おりた先は、お土産物が売っていて、地上まで見下ろせるガラス張りの床があったり、日本で言うところのスカイツリーや東京タワーの展望台という感じで、ペナントとか木刀とか売っているような感じ。そこにいる人々も、アメリカ中から集まったお祭り的な方々だけで、我々日本人にも大変フレンドリーでした。当時のアメリカは不況や治安の悪化などに悩まされていた時代でしたが、おらかな雰囲気、おとなしい国であったように思います。しかし、そのビルが崩壊した同時多発テロはその後のアメリカの分断を生んだと言われています。そして今現在の状況に至るわけです。現ニューヨーク市長のマムダニ氏は格差解消や高すぎる家賃の値上げ凍結を掲げて支持を拡大しましたが、イスラム教徒でもあります。そんな彼に反発する遺族もいるわけで・・・。世の中は一筋縄ではいかないことだらけです。無責任な言葉や、垂れ流される怪しげな情報、一方的な価値観に振り回されないたたかさを身につけてほしいと思います。

■ 教育実習

月高に今年も8人の教育実習生がきました。少し話を伺ったのですが、全員月高の卒業生で、本当に教育現場を目指していて、教員免許を取りたいとのこと。月高で習った先生（今も教師として在籍しています）に影響を受けたという奇妙な？学生もいました。今まで勤めた学校では、とりあえずの資格として、保険として教員免許を取っておく・・・という実習生も少なからずいたのですが、教員不足の中、嬉しいことではあります。2～3週間の実習ということで、それぞれの教室でお世話になります。よろしくお願いします。

ところで、私も経験があるのですが、授業を受ける立場と、実施する立場ではまったくもって緊張度が違います。まず教室に入った瞬間の40人の生徒の好奇の目が一斉に飛んできます。視線のやりとりの状態です。そして最初は期待して話を聞いてくれますが、つまらない、聞くに値しないと生徒が思ったら、視線が伏せがちになり、姿勢も崩れてきます。

我々生の教員が持つ強みとは、生徒の反応を見ながら話ができることです。つまり、毎日がライブ状態です。楽しくもあり、苦しくもあるのですが、反応を見ながら臨機応変に対応できることが、AIにはない人間の強みですので、この期間頑張って修行して欲しいと思います。

40年近く前、私が小学校教員の免許取得のため、附属小学校へ実習に行ったときは、ちょうど付属小の全国研究大会の当番校とぶつかり、その準備のため床のワックスがけに励む日々でした。電動のポリッシャーの扱いに精通することができました。今でも身体が感覚を覚えているので、退職後いつでも床掃除の仕事はできます。何が役に立つかわからんですな。

■ 伸び率10%

先日、ベネッセの方が本校を訪れ、校長室にも顔を出してくれました。詳しくは進路便りなどで説明があるかもしれませんが、本校の一年生が、4月から7月にかけての模試の結果で、**驚異的な伸び**を示しているという分析結果でした。

簡単に言うと成績下位層の割合が10%減り、成績上位層が10%増加ということです。学年主任のS先生は、「次の模試の結果を見ないと・・・」と謙遜していましたが、入学してから現一年生が真面目に学習に取り組んでいるという成果であり、十分誇って良いことだと思います。

現一年生は私立高校無償化（本当は無償ではないけど・・・）の影響を結構受けて、受験の時になんかかんやあった学年です。でも月高を選んでくれた生徒達はしっかりと先を見据えて頑張ってきた成果だと理解しています。

月高生らしくこれからも日々の高校生活を謳歌しながら、実力を養成してくれることを期待します。

■ あとがき

9月9日(水)、有朋高校で、石狩支部の高校定時制通信制生徒生活体験発表会を観覧してきました。11校の生徒達の様々な発表を聞いてきました。もちろん月定からも代表が参加し、緊張しながらも立派な発表でした。

彼の発表の中で、「介護施設で実習を体験したときにマニュアル通りに対応したら利用者に嫌がられたが、自分で様子を見ながら工夫したらうまくいった」という体験がありました。これを聞いて思い出したのが、8月26日に投稿されていたビル・ゲイツの話。ゲイツ氏は6年前にアルツハイマー病で父親を亡くしているが、介護経験の中で、父親が言葉で自分の状態を伝えられなくても、介護士は表情や様子から何を必要としているのかを理解していたという例を挙げ、介護や教育、メンタルヘルスなどの仕事はAIに任せない「人間の領域」であると提案しています。かつてゲイツ氏はAIが未来を変えると肯定的でしたが、現在はAIが人間の仕事を奪う未来に警鐘を鳴らしています。今、アメリカではAIを脅威に感じ否定する動きが盛んになってきているようですが、便利なものの普及が止められないのは歴史が証明するところ。さて、我々はどうするか……。